

# ひやま農業の概況



# 2014

北海道檜山振興局産業振興部

住 所 檜山郡江差町字陣屋町336-3

電 話 0139-52-6571 (ダイヤルイン)

<http://www.hiyama.pref.hokkaido.lg.jp/ns/num/index.html>

E-Mail [hiyama.nomu1@pref.hokkaido.jp](mailto:hiyama.nomu1@pref.hokkaido.jp)

## I 檜山農業のあゆみ

### 1 檜山地域開発のはじまり

檜山地域の開発は早く、約800年の歴史を有しています

- |               |  |
|---------------|--|
| 文治 5年 (1189年) | ・和人定住。藤原泰衡の一族が江差付近に上陸したのが始まりとされています。   |
| 亨徳 3年 (1454年) | ・武田信広が上ノ国渡来、地域開発開始。  |
| 延宝 5年 (1678年) | ・松前氏、江差に奉行設置。経済的基幹は鉱産・林産・水産の資源で、北前船により本州の米などと交易されていました。<br>・特に、ニシンは「鯨は魚に非ず松前の米なり」と言われるほど重要視されていました。そのため、にしんの凶漁は飢饉を招くことから、雑穀類の耕作が始まり、さらに稲作が試みられるようになりました。 |



1800年頃の江差の街並み

### 2 稲作のあゆみ

- |               |   |
|---------------|---|
| 元禄13年 (1700年) | ・江差で新田を耕したのが稲作の起源と言われています。                  |
| 寛政 2年 (1790年) | ・当時の農村として厚沢部川、安野呂と天ノ川筋が記録されています。            |
| 明治12年 (1879年) | ・天ノ川流域への入植。                                 |
| 明治13年 (1880年) | ・乙部姫川への入植。                                  |
| 明治17年 (1884年) | ・厚沢部町館への入植。徳島から21戸がせたな町北檜山区へ入植。             |
| 明治21年 (1888年) | ・鷲の巣への入植。                                   |
| 明治24年 (1891年) | ・同志社学生が今金町に入植。その後、後志利別川流域においてめざましく開発が進みました。 |



田植え風景 (昭和25年頃)

### 3 畜産のあゆみ

- |               |  |
|---------------|--|
| 慶長20年 (1615年) | ・馬を飼養。                                     |
| 寛政11年 (1799年) | ・牛豚導入で本格的畜産開始。                             |
| 明治38年 (1905年) | ・せたな町北檜山区にホルスタイン種が導入され酪農開始。                |
| 昭和 2年 (1927年) | ・ホルスタイン種が今金町に20頭、せたな町瀬棚区に26頭導入。            |
| 昭和25年 (1950年) | ・せたな町大成区に日本短角種導入。その後、江差町、上ノ国町、奥尻町で飼養されました。 |



放牧風景 (昭和30年頃)

## II 檜山農業の概況

### 1 位置

檜山管内は、北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、南北に細長い地形です。大成沖27kmにある離島の奥尻町を含む全7町で構成されています。

総面積は2,630km<sup>2</sup>で佐賀県よりやや大きく、全北海道83,454km<sup>2</sup>のうち、3.2%を占め、14総合振興局・振興局の中では最も面積が小さい振興局です。

北部には後志利別川、南部には厚沢部川、天の川などが流れ、その流域は肥沃な農耕地となっています。

### 2 気候・土地

気候は、北上する対馬海流の影響を受け、江差の年平均の平均気温は10.1℃と道内でも気温が高く、寒暖の差が少ない地域です。

また、海岸部は冬期間の季節風が強く、10月から3月の平均風速は6.2m/秒と道内でも有数の強風地帯です。

土地は平坦地が少なく丘陵地、段丘地が多く、特に牧草地では傾斜地が多くなっています。土壌は、排水の良い黒ボク土、褐色低地土、褐色森林土が約6割を占め、排水の悪い泥炭土、灰色低地土などが約3割を占めています。

### 3 農家

(1) 平成22年の総農家数は1,794戸で、内訳は販売農家が1,330戸、自給的農家が464戸となっています。

(販売農家＝主業農家＋準主業農家＋副業的農家)

(2) 総農家のうち販売農家の割合は74%で、全道の86%に比べて低く、自給的農家が26%を占めています。

(3) 販売農家のうち、主業農家(農業所得を主とする農家)の割合は56%で、全道の72%に比べて低くなっています。

(4) 農業就業人口のうち、65歳以上の割合は42%で、全道の34%を大きく上回っています。

(5) 1経営体当たりの経営耕地面積は11.8haで、全道の23.5haに対して約5割となっています。

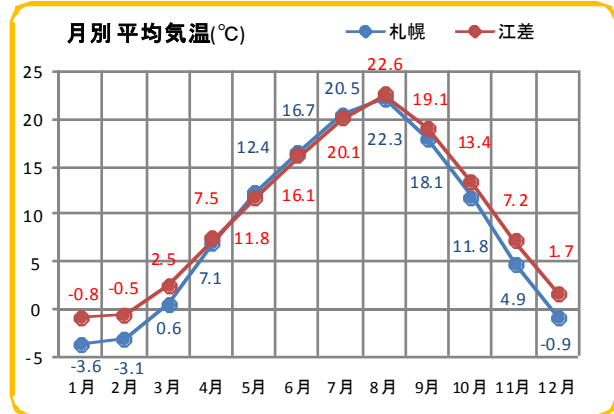
### 4 農畜産物

(1) 各作物の作付面積は、全道と比べると、水稲、豆類、馬鈴しょの割合が高く、小麦、てん菜の割合が低くなっています。

(2) 各作物の10a当たり収量は、全般的に全道平均を下回っています。

(3) 牛乳の生産量は23千トで、全道の生産量3,836千トの0.6%となっています。

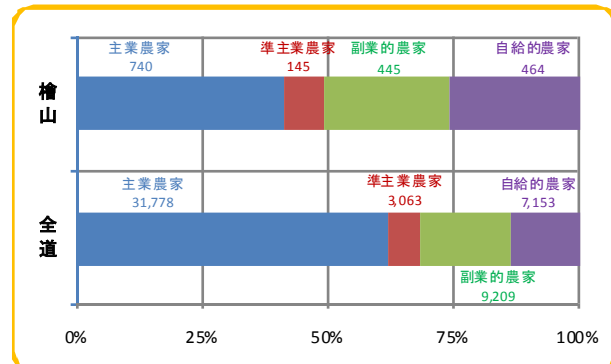
(北海道酪農検定検査協会「平成24年度合乳検査成績」)



資料: 気象庁

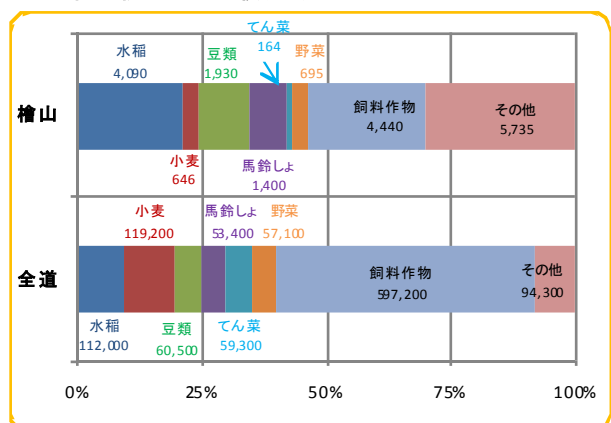
図1 農家戸数の内訳(平成22年)

(単位: 戸)



資料: 農林水産省「2010年世界農林業センサス」

図2 各作物の作付面積(平成24年)



資料: 農林水産省「農林水産統計年報」

(檜山の豆類の一部、野菜、飼料作物は北海道調べ)

### Ⅲ 地域の取り組み

#### 1 生産対策

(1) 檜山南部地域では、水稲のほか、馬鈴しょや豆類が主体で小規模兼業農家が多く、輪作体系が組みづらい状況であるため、地域の特性を活かした作物を地域戦略作物として位置づけ、農業者の所得確保と経営安定に向けて取り組んでいます。

##### 檜山南部地域戦略作物

- ①アスパラガス立茎栽培 ②ブロッコリー ③ばれいしょ早出マルチ等栽培  
④水稲直播栽培



特に、アスパラガス立茎栽培は、ハウス栽培で春芽と夏芽年2回の収穫期があり、収量は露地栽培の約5倍が見込まれるなど生産性が高く、平成25年産の販売額は2.6億円となりました。

また、ブロッコリーは平成17年に乙部町で9戸1法人の生産農家が契約野菜として栽培したのが始まりで、厚沢部町、江差町、上ノ国町にも作付けが広がり、土地利用型野菜の柱として位置づけられています。

(2) 檜山北部地域においても、水稲のほか、馬鈴しょや豆類が主体となっており、特に「今金男しゃく」は商標登録され全国ブランドとなっています。また、高収益作物であるほうれんそうやミニトマトなどの野菜導入も進められており、檜山南部で成功したブロッコリーは平成19年度から取り組まれています。(檜山全体のブロッコリー作付面積は、H24年で96ha)

酪農は北部地域が中心であり、畑作や水稲との複合や、放牧などの特色ある経営形態が見られますが、効率的な農業経営を目指した農業生産法人「(有)デーリー・ファーム若松」が平成16年1月に、道南初の3戸協業酪農法人として操業しました。

平成21年には搾乳牛の目標頭数である400頭に到達し、酪農経営法人化のモデルケースとして地域への波及効果が期待されています。

(3) 檜山管内では、消費者ニーズに応えるべく安全・安心な作物の生産・供給に努めており、せたな町瀬棚区をはじめとして有機農産物(米、大葉、ミニトマト等)の生産を行っているほか、米や野菜などを生産するいくつかの生産集団や農家が、YES!clean農産物やエコファーマーに登録されており、現在、各産地でGAP(農業生産工程管理)が取り組まれています。

<p>認証取得済 有機農業者</p> <p>【15】</p>	<p>①(有)ワタミファーム 瀬棚農場(せたな町瀬棚区) ②瀬棚有機生産グループ(せたな町瀬棚区) ③山本信頼(厚沢部町) ④曾我井陽光(今金町) ⑤平田克則(せたな町瀬棚区) ⑥横山一康(せたな町瀬棚区) ⑦岡崎邦三郎(せたな町瀬棚区) ⑧高橋利治(せたな町瀬棚区) ⑨諸戸浩美(せたな町瀬棚区) ⑩大口義盛 ⑪シゼントモニキルクト(株)(今金町) ⑫(株)自然農法(江差町) ⑬秀明ナチュラルファーム(せたな町瀬棚区) ⑭津田農園(今金町) ⑮金谷勝則(せたな町)</p>
<p>YES!clean 登録集団</p> <p>【8】</p>	<p>①瀬棚クリーン米生産組合(水稲) ②今金町早出し馬鈴薯振興会(馬鈴しょ) ③檜山北部広域ホウレン草部会(ほうれんそう) ④JA きたひやま蔬菜生産部会メロン部会(メロン) ⑤(有)うまいベイこだわり工房(水稲) ⑥JA新はこだてひやま南青果物生産振興会レタス部会(レタス) ⑦JA 今金クリーン米研究会(水稲) ⑧JA きたひやま蔬菜生産部会ネギ部会(ネギ)</p>

#### 2 新規就農対策

檜山管内の新規就農者数は、毎年10名程度で推移し、そのうち8割程度を新規学卒者とUターン就農者が占めており、地域で偏在化している状況です。

農業後継者のいない農家の割合も80%に達しており、担い手の育成・確保が急務となっています。

振興局では、将来の管内農業を担うリーダーの育成や農業経営の第三者継承に対する支援などに取り組むこととしています。

##### 檜山管内の新規就農者数

(単位:人)

区分	H14	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25
新規就農者数	16	20	18	14	17	10	13	10
新規学卒者	10	3	4	3	4	4	1	2
Uターン	5	11	10	11	11	5	9	7
新規参入者	1	6	4	-	2	1	3	1

資料: 檜山振興局調べ

## IV 檜山振興局の取り組み

### 1 担い手の活動支援

平成23年10月に檜山管内の青年農業者が主体(実行委員会)となり、檜山農業の魅力や青年農業者の活動等の情報発信と一般住民との交流を目的としたイベント『Green Jam』が初めて開催されました。25年7月にはせたな町において、檜山北部の青年農業者が主体となった交流イベント「檜山北部アグリフェスタ」が開催されました。

これまでの点的つながりから横断的なつながりをもって取り組まれた青年農業者主催のイベントを盛り上げるため、各町及び農協、普及センター、振興局が裏方として後方支援を実施しています。

明日の檜山農業を担う青年農業者に地域農業を盛り上げる自発的意識が芽生え始めており、檜山振興局としてもこうした青年農業者の育成と支援を通じ、活力ある農業・農村コミュニティの形成と檜山農業の持続的発展に寄与していくこととしています。



### 2 農業振興対策(独自事業)

檜山ならではの特色を生かした農業振興の取り組みを進めていくため、米や馬鈴しょに続く新しい檜山ブランドとなりうる新規作物の導入や、地域に適したアグリビジネスの定着しを推進していくため、平成21年度から「檜山の農業バリューアップ作戦」を実施しました。

本事業では、新たな作物の栽培実証を進めたほか、農畜産物の付加価値を高める直売や加工などのアグリビジネスの取り組みの芽を育てる取り組みを展開し、これらを契機として新規作物へのチャレンジ精神が醸成されたほか、アグリビジネスによる収益性の高い農業経営の展開に向けた意欲が芽生えつつあります。

〈栽培実証作物の一例〉



また、平成24年度からは、これまで取り組んだ新規作物栽培実証の技術定着等と併せ、地域の基幹作物である馬鈴しょを中心とした生産性向上に向けた「土づくり」と新規作物等との効果的な組み合わせによる「輪作体系の確立」を目指した『新たな檜山農業推進プラン促進事業』を展開しています。

さらに、各地域が策定する中長期的な農業振興計画の検討等をサポートし、より魅力ある地域農業・農村地域の形成と、檜山農業の持続的発展を推進していきます。

### 【独自事業の展開イメージ】

事業区分	平成23年度まで	平成24年度	平成25年度	平成26年度
檜山の農業バリューアップ作戦	新規作物栽培実証	農業改良普及センターによる栽培技術定着に向けたサポート		
新檜山農業推進対策		現状と課題の抽出	推進方策の提案と検討	中長期的振興計画の策定と見直し
基幹作物等構造改善事業	※農業改良普及センターによる技術的サポートの展開			
檜山らしい農業力『ブラッシュアップ』対策		既存企業体のブラッシュアップ	食業体ネットワークの構築	起業化に向けた研修会等の開催
商品開発等支援対策			アンテナショップによるモニタリング調査等	アンテナショップによるモニタリング調査等